

# 政治研究結果報告書

—政治研究助成—

西暦2024年（令和6年）4月 1日

一般財団法人 櫻田 會  
理事長 増田 勝彦 殿

研究者 学習院大学法学部教授  
庄司 香

第40回（令和3年度）櫻田會政治研究助成による研究を下記のとおり実施しましたので、その結果について報告します。

※印の記入項目に関する貴會ホームページへの掲載についても同意いたします。

記

※研究の名称（英語も記入） Research Theme

米国における女性の政治参画を支えるインフォーマルな支援メカニズム

Informal Support Mechanisms Behind Women's Entrance to Political Careers in the United States

※英文抄録（研究目的、経過、成果 250 words 以内） Abstract (Purpose, Process, Significance)

This research focuses on the two informal support mechanisms that promote women's entry to political career in the United States. The first is the internal party rules such as the equal division rule the Democratic Party adopted for its national convention delegates. The rules seem to have promoted women participation in party affairs, but their impacts on increase of elected/appointed women politicians are yet to be examined. The second is the various organizations which educate girls as citizens early on, recruit potential candidates, train those who decided to run, or fund those who are running. While these support groups are predominantly liberal-leaning, much less has been known about the support mechanism on the conservative side. On the assumption that the pools of potential candidates and the political career paths may differ across the party line, this research attempts to reveal the unique universe of the politically active Republican women through field research and interviews. The project has only started with the help of the grant.

※研究の目的・研究方法・意義（和文 600 字以内）

世界では議会への女性進出の促進が重視され、クオータ制をはじめ様々な施策が講じられるこ

とで、多くの国で議会における女性比率が高まっている。しかし、先進国中에서도議会における女性比率が圧倒的最下位である日本では、「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」が2018年に制定されたにもかかわらず女性議員を増やす機運が高まらず、2021年総選挙でもむしろ女性議員が減る惨状である。義務的クォータ制やパリテ法のような大胆な改革が当面期待できない国で、女性の政治進出を促進するカギはどこにあるだろうか。本研究では、クォータ制などを導入しにくい政治風土と小選挙区制のもとで女性議員を増やしてきたアメリカに焦点をあて、女性候補者や女性議員が直面する共通の課題と、その克服を助けてきた様々な取り組みを考察する。選挙制度の変更が困難な場合、インフォーマルな領域で取り組みが進むが、こうした対応は現地で聞き取りをしないかぎりなかなか具体的に実態を把握できない。そこで、本研究では、現地での聞き取りを行う。こうして得られる知見が、よく言及されるクォータ制などとは異なる角度から、日本のような女性の政治参画後進国に必要な取り組みを浮き彫りにする。

#### ※研究経過と結果の概要 (以下の欄に35行以内(1500字程度)にまとめる)

本研究ではアメリカ政治における女性参画を支えるインフォーマルなメカニズムに焦点をあてているが、フォーマルな制度が、候補者公認や議席において一定の女性比率確保を義務付けるクォータ制度など、選挙制度に立法的に組み込まれた手法を指すのに対し、インフォーマルな制度は、政党やそれ以外の民間団体による自発的取り組みを指す。政党の取り組みは何らかの形で政党規則に現れることが多いが、その執行水準は記録に残りにくく、実態の把握は容易ではない。本研究では、アメリカの政党が歴史的にどのように女性の参画を促進しようとしてきたか、歴史的文献をもとにその制度的変遷をたどった。州以下の党組織(特にリーダーシップをもつ役職)における男女同数ルールが20世紀半ばまでに広がったことがわかったが、実際にその規則がどの程度執行されたかは容易に確認できなかった。歴史的な一次資料を掘り下げて数字を探す作業に取り掛かることが現実的か、今後検討していく。1970年代以降は民主党が全国党大会における代議員に男女同数ルールを課していくことにより、党内における女性参加が活性化した。これが選挙に立候補する女性人材の育成に資したことが、同様のルールを導入しなかった共和党における女性候補者・議員の少なさとの比較からも推測されるものの、この実証的な検証もまた今後の課題である。政党以外の民間団体による女性の政治参画支援については、女性候補者に対する資金的支援がよく知られるが、アメリカではそれ以外にも様々な活動が発達してきたことがわかった。幼少期からの公民教育や大学での合宿を通じた「政治的社会化」を、特にマイノリティや貧困層の女性を重点的に対象として行う超党派団体もある。州レベル、あるいはそれよりローカルな選挙への出馬を決意した女性に、資金集めや演説などの実践的訓練を行い、仲間として頼れるネットワーク構築をアシストする団体、有力な潜在的な女性候補者

を立候補するよう説得することに特化した団体、政治的任用職への女性人材バンク構築に取り組む団体など、その活動は多種多様である。また、こうした団体が圧倒的に民主党寄り、リベラル勢力に偏っているのがアメリカの特徴である。ただし、連邦議員など政治の中枢に上っていく政治的キャリアパス（パイプライン）のあり方や、人材プールとなる職業などが政党により異なることが先行研究で指摘されており、本研究ではこれまであまり注目されてこなかった共和党側の女性参画のあり方を掘り下げるべく、現地で聞き取りを行った。浮かび上がったのは、民主党とは異なる参画のあり方と政党との距離感であった。今回の調査だけでは共和党における女性の政治参画の大きな地図を描き出すために十分でなく、また現地調査を行ったのが助成期間終了間際だったこともあって、成果としてまとめるには間に合わなかったが、今後研究を広げていくための道しるべを得ることができた。

**※研究成果の発表・著書、論文、学会報告等（あるいは発表の計画や形式等）**

**〔注〕 文責は貴研究グループに負っていただきます。個人情報等には十分ご注意ください。**